

科目名	運動学			ナンバリング	ZBA218	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	Goh Ah-Cheng	担当教員					

授業の概要	ヒトの運動を解析し、その構成要素の分析を試みるこの学問は、理学・作業療法士が検査・測定、統合と解釈および治療計画を立案するうえで非常に重要である。そこで本授業科目では、運動学概論、骨・骨格の理解、運動生理、関節学、下肢・体幹の筋学、筋の収縮と神経制御、反射学概論、上肢・頸部・頭部の筋学などを学び、人間の「総合的・全身的な運動」について科学的に考察できるように成ることを目指す。						
到達目標	・人間の身体運動の機構・原理を理解し、運動学・作業解析学的思考を身につける。 ・人間の運動・作業に関与する筋群や支配神経経路との関係を理解し、説明することが出来る。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	幅広い正常動作について理解するためには、人間の動きを観察するための視点を鍛える必要があります。 家や学校など様々な場面でトレーニングができますので取り組むようにして下さい。						
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。				
		2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。				
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。				
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。				

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
授業で示した基本的な概念に関する問題が解ける 応用問題が解ける	やや難しい応用問題が解ける 臨床に即した難しい応用問題が解ける

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●						80%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		●	●	●	●		20%

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	はじめに	生体力学Ⅰ	
	第2回	上肢の運動学	肩甲帯・肩関節の構造と動き	
	第3回	上肢の運動学	肘関節・前腕の構造と動き	
	第4回	上肢の運動学	手関節・手指の構造と動き	
	第5回	上肢の運動学	コップの水を取ろうと手を伸ばすこと	
	第6回	下肢の運動学	股関節の構造と動き	
	第7回	下肢の運動学	膝関節の構造と動き	
	第8回	下肢の運動学	足関節の構造と動き	
	第9回	体幹の運動学	頸椎部・胸椎部・腰椎部・骨盤の構造と動きⅠ	
	第10回	体幹の運動学	頸椎部・胸椎部・腰椎部・骨盤の構造と動きⅡ	
	第11回	日常生活動作	背臥位から側臥位への寝返り	
	第12回	日常生活動作	側臥位からの起き上がり	
	第13回	日常生活動作	座位からの立ち上がり	
	第14回	日常生活動作	正常歩行	
	第15回	日常生活動作	異常歩行	
	試験	全講義終了後、筆記試験を実施する。		
授業の進め方		講義、実習		
授業外学習の指示		解剖学、生理学などの基礎医学の復習をよくしておく。 （授業外学習時間： 毎週 240 分）		

教科書	Donald A.Neumann著:筋骨格系のキネシオロジー—カラー版（日本語）、医歯薬出版、12,000円＋税、ISBN978-4-263-21395-7
参考書	Jacquelin Perry（著）、武田 功（翻訳）、弓岡 光徳（翻訳）:ペリー歩行分析原著第2版正常歩行と異常歩行（日本語）. 医歯薬出版, 9,000円＋税、ISBN978-4-263-21398-8
参考URLなど	特になし
その他	特になし